

## 5年1組 「友だちになりたい」という交流の形

### ○「毎日会いたい。あの子にも『友だち』って思っていてほしいから」



「わたしは友だちって思っているけど、あの子はわたしのこと、どう思っているだろう・・・」

「友だちって、先生達で相談したり、みんなで計画したり準備したりしてから会うことなんてないじゃん。もっと普通に『また明日!』って、お別れする関係になりたいよ」

「ぼくたちの日課を特別支援学校の日課に合わせれば、毎日一緒に休み時間遊べないかな」

そんな何気ない会話の中から、毎日、お昼休みを一緒に過ごす生活が始まりました。一緒に給食の片付けをして、一緒にそうじをして、庭で思いっきり遊ぶ。最初はペアのあの子がやりたいことを「一緒にしてあげる自分」や「ただ追いかけている自分」を感じたこともありましたが、毎日毎日同じ時間を過ごす中で、そんなメッキはいつの間にかはがれ、「いっしょにしようよと誘いたくなる自分」や「一緒に走っている自分」を感じていくようになりました。私たち自身が、この時間を思い切り楽しんでいるのです。

「また明日ね! って帰ってくるとね、明日が楽しみになって、授業だから何て関係なく、家でもあの子のこと考えているんだよね。」

「わかる! あの子はお家ではどんな子としているのかな・・・」



今日も、特支に遊びに行きました。最近のKさんのお気に入り、落ち葉がいっぱいあるところ。落ち葉を投げたり、音を楽しんだりしています。楽しそうな顔を見ていると、僕の口はいつの間にか笑っています。僕は、Kさんと遊んでいる時間がとても楽しいです。でも、どうしてだろうな。Kさんはしゃべれないし、遊びも限定される。5の1の友だちとは、Kさんとしている遊びは絶対につまらなくなるし、やらない。Kさんとやると楽しい。やりたくなる。Kさんとは、友だちになれたと思っていたけど、ちがうのかな。僕の大切な『弟』に対する気持ちにすごく似ている。あれ、もしかして家族になっちゃったの? 弟の幸せを願う様に、Kさんの今の幸せもだけど、未来の幸せも願っている僕がいる。友だちになりたいと思っていたけど、家族みたい。いつからこうなっていたんだろう。でも目指す関係は「してあげる」ではなく「しようぜ」ということに、変わりはない。

～12月9日 Kくんの日記から～

### ○「同じ『未来』の担い手として、社会に出会い直す 共に生きる自分を願う」

Nさんは、ペアのMさんと一緒に過ごしています。Nさんは「落ち葉遊びをしたとき、Mさんがとびっきりの笑顔で私の目をじっと見てくれて胸がきゅっとなった」と綴っていました。Mさんのことが大好きです。

12月頃から、電車通学で気になっていることがありました。それは、ある方との出会いです。

○駅で障がい者さんに会いました。その方は私を見たら、のぞいて、何か話しかけてきてくれます。今日初めて「何年生?」って聞かれていると分かりました。びっくりしたし、少し怖かったです。でも、うれしかったです。話し終わった後に、「私に話しかけてきてくれた言葉は『こんにちは』だったんだなって思いました。だから「気持ちが分かるってうれしいな」と思いました。またあの方とお話したいです。

○今日、またあの方に会いました。「今度こそ話すぞ」と思ったけど、また勇気が出なくて「はい」しか言えませんでした。なんでできないんだろう。こんな自分が悔しいです。でもあきらめたくないし、あきらめない。いつかこの日の自分に「今では当たり前なのにね」って言いたいです。だから挑戦し続けたいです。

○今日は塾の帰りにホームであの方に会いました。同じことを何度も聞かれるのがいやで、本当はいけなくて思っているのに、見つからないように隠れました。その時の自分がすごく悔しくて、「どうしてそんなことしたの」って怒りたくなります。もう二度と後悔したくないし、堂々と前向きに生きていきたいです。

○今日、自閉症の人のことを教えてもらいました。帰りに電車のホームにたまにいる方が、毎回同じことを聞いてくるから、気になって聞いてみたら、『自閉症の方は、同じことを何度も聞くのが好きなんだよ』って教えてもらいました。それを聞いたら、もっと障がい者さんのことを知りたくなりました。だから交流ももっと大切にしたいと思いました。

Nさんにとって、Mさんとの交流は、「共に生きたいと願う自分」の発見にもなっています。社会の中で多様に生きるその人に、私たちはちゃんと出会っているのだろうか。簡単ではない「共に生きる」ということ。Mさんのように、いろんな自分を発見しながら、それでも下を向かず、よりよく生きたいと、この社会の中で歩んでいこうとする子どもたちです。